

SNS 上での返信速度と性格特性の関連性分析*

加藤健洋^a 藤田華^b

杉本晴^c 永井武尊^d 今西凱^e 山原知也^f

要約

本稿は、人は返信相手、性格、忙しさという要因によって返信速度を変えているのかを分析することを目的としたものである。分析の結果、「返信相手によって返信速度を変えている」という仮説は立証された。そして外向的・内向的の2つの性格を用いて分析した結果、全体として外向的な性格を持つ人の方が、返信速度が速いことが分かった。また、好意を持つ人に対してのみ性格による平均値に有意差があり、外向的な人の方が好意を持つ人に対して返信速度が速いことが分かった。しかし、忙しさと返信速度に関係性は見られなかった。そのため、忙しさは関係なしに、外向的な人は好意を抱いている人に対して返信速度が速くなることが証明された。

JEL 分類番号：D91

キーワード：SNS, 返信速度, 忙しさ, 外向性

*なお、本論文に関して、開示すべき利益相反関連事項はない。

a 同志社大学経済学部経済学科所属 cgeh0260@mail3.doshisha.ac.jp

b 同志社大学経済学部経済学科所属 cgeh0060@mail3.doshisha.ac.jp

c 同志社大学経済学部経済学科所属 cgeh0714@mail3.doshisha.ac.jp

d 同志社大学経済学部経済学科所属 cgeh0448@mail3.doshisha.ac.jp

e 同志社大学経済学部経済学科所属 cgeh0176@mail3.doshisha.ac.jp

f 同志社大学経済学部経済学科所属 cgeh0902@mail3.doshisha.ac.jp

1. イントロダクション

1.1 研究の背景と目的

本研究は、SNS 上でのメッセージ返信速度と個人の性格特性および生活状況との関連性を分析することを目的とする。特に、返信相手との関係性によって返信速度が変化する可能性に着目し、その要因として個人の性格と忙しさの影響を検証する。

現代を生きる私たちは携帯電話を利用している。令和3年度、「スマートフォン」の利用率は95.3%である。平成24年の調査開始以降、一貫して増加している。また、60代でも85%を超過している。加えて、ソーシャルメディア系アプリである「LINE」の利用率は一貫して増加し、90%を超過。年代別でも、10代から50代で90%を超過している（総務省、2022）。また、「スマホ依存症」という言葉が生まれるほど、スマートフォンの使用に熱中している人も存在する（中原・大津・市原、2023）。そんな彼らが熱中しているものの一つに、SNSを用いたメッセージのやり取りがあげられる。我々はSNS上でのメッセージのやり取りに対して、個人がどれほど重きを置いているのか、興味を持った。メッセージの返信を行うためにはスマートフォンを使用する時間が必要となる。そのため、スマートフォンを使用することができる人が多い人、つまり暇な人の返信速度が早いのではないかと考えるのが真っ当だろう。しかし、我々の日常生活の観察から、必ずしもそうでない可能性が示唆された。そこで本研究では、返信速度が単純に時間的余裕だけでなく、返信相手との関係性や個人の性格によって変化するのではないかという仮説を立てた。

1.2 仮説

人は返信相手によって返信速度を変えており、またその要因は、性格と忙しさである。

2. サーベイ実験

2.1 手法

まず、10代～60代以上の154人を対象に、2024年8月26日から9月12日の期間でGoogle formsを用いてアンケート調査を実施した。アンケート内容は下記の付録に記載している。

1つ目のセクション「日々の生活に関する質問」では、個人間における忙しさについて尋ねている。2つ目のセクション「返信速度を測るための質問」では、返信相手ごとの返信速度について質問している。3つ目のセクション「性格を測るための質問」では、性格、特に外向的か内向的かを尋ねている。

2.2 分析

アンケート調査の結果に基づいて回答者それぞれの忙しさ, 返信速度, 性格を点数化し可視化した。アンケートでは各質問に対して下記に示したように4つの選択肢があるが, 左から順に4点, 3点, 2点, 1点と定めた。また, 1つ目のセクションにおける質問の点数の合計値の平均値が 15.026 であった。これより, 回答者の合計値は自然数であるから, 点数の合計値が16点以上の人を「暇な人」, 15点以下の人を「忙しい人」と定義した。同様に3つ目のセクションにおける質問の点数の合計値の平均値が 11.714 であった。これより, 回答者の合計値は自然数であるから, 合計点が12点以上の回答者を「外向的な人」, 11点以下を「内向的な人」と定義する。

まず初めに, 「返信相手によって返信速度を変えているかどうか」という仮説を検証する。アンケート結果より, 分析の対象者を回答者全員として, 実験参加者内一要因分散分析を行った。その結果, 以下のような結果が得られた。

平均値差は5%水準で有意であった。

$$F(3, 459)=43.243 \quad p<.001 \quad \epsilon_p^2=.220$$

以上の分析により, 仮説は立証された。

図1として返信相手による返信速度の平均値の比較をまとめている。

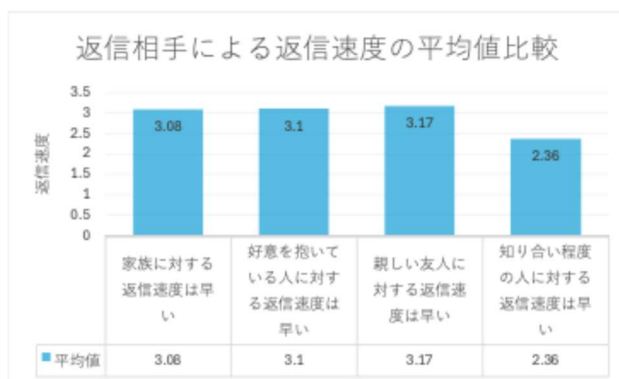


図1 返信相手による返信速度の平均値比較

次に, 「その要因が性格と忙しさである」という仮説を検証する。返信速度に関して, 2つの群間(外向的-内向的)で対応のないt検定(等分散性を仮定した2標本による検定)を行ったところ, 次のような結果が得られた。表2に性格と返信相手ごとの返信速度をまとめている。

- ・家族に対する返信速度

平均値差は5%水準で有意ではなかった。

$$t(152)=.085 \quad p=.932$$

- ・好意を抱いている人に対する返信速度

平均値差は5%水準で有意であった.

$t(152)=-2.399$ $p=.018$

・親しい友人に対する返信速度

平均値差は5%水準で有意ではなかった.

$t(152)=-1.886$ $p=.061$

・知り合い程度の人に対する返信速度

平均値差は5%水準で有意ではなかった.

$t(152)=-1.186$ $p=.237$



図2 各種関係性における返信速度の比較

以上の分析により,全体として外向的な性格を持つ人の方が、返信速度が速いことが分かった.また,好意を持つ人に対してのみ性格による平均値に有意差があり,外向的な人の方が好意を持つ人に対して返信速度が速いことが分かった.

しかし,返信速度は性格だけで決まるものではなく,そこには忙しさも関わってくると考え,返信速度に関して性格と同様に,2つの群間(忙しい人-暇な人)で対応のないt検定を行ったところ,次のような結果が得られた.

・家族に対する返信速度

平均値差は5%水準で有意ではなかった.

$t(152)=.055$ $p=.956$

・好意を抱いている人に対する返信速度

平均値差は5%水準で有意ではなかった.

$t(152)=1.025$ $p=.307$

・親しい友人に対する返信速度

平均値差は5%水準で有意ではなかった.

$t(152)=-.259$ $p=.796$

・知り合い程度の人に対する返信速度

平均値差は5%水準で有意ではなかった。

$t(152) = -.883 \quad p = .379$

以上の分析より、忙しさと返信速度の関係性は見られなかった。

したがって、忙しさは関係なしに、外向的な人は好意を抱いている人に対して返信速度が速くなることが証明された。

3. 結論

調査の結果、人は返信相手によって返信速度を変えており、その要因は性格であることがわかった。その中でも外向的な人ほど好意を持つ相手に対して返信速度が速いことが明らかになった。また、忙しさは返信速度と無関係であることもわかった。しかし、本研究にはいくつかの限界があることも認識している。性格の内向性・外向性に関する質問が主観的なものであり、性格に対する質問の数も少なかった。また、返信速度の測定が被験者の主観的な判断のみに基づいていたため、実験者側からも判断できる客観的なデータがあればより良かったと考えられる。

付録

アンケート

設問1 性別 ・男性・女性・その他

設問2 年齢

・10代・20代・30代・40代・50代・60代以上

セクション1「日々の生活に関する質問」

設問3 一人の時間が十分にある

・当てはまる・どちらかといえば当てはまる

・どちらかといえば当てはまらない・当てはまらない

設問4 スケジュールに余裕がある

・当てはまる・どちらかといえば当てはまる

・どちらかといえば当てはまらない・当てはまらない

設問5 1日に十分な睡眠時間がある

・当てはまる・どちらかといえば当てはまる

・どちらかといえば当てはまらない・当てはまらない

設問6 1日にどれくらい自由な時間がありますか？（※必要な移動時間などを除く）

・ 8～10 時間・ 6～8 時間・ 4～6 時間・ 2～4 時間・ 0～2 時間

設問 7 1 週間のうち何も予定が埋まっていない日にちは何日ありますか？

(※授業や仕事も予定とみなす)

・ 6～7 日・ 4～5 日・ 2～3 日・ 0～1 日

設問 8 1 日にどれくらい睡眠時間を確保していますか？

・ 10 時間以上・ 7～9 時間・ 4～6 時間・ 3 時間未満

セクション 2「返信速度を測るための質問 (LINE などの SNS やメールなどの返信を想定)」

設問 9 家族に対する返信速度は早い(緊急時を除く)

・ 当てはまる・ どちらかといえば当てはまる
・ どちらかといえば当てはまらない・ 当てはまらない

設問 10 好意を抱いている人(恋人を含む)に対する返信速度は早い(緊急時を除く)

・ 当てはまる・ どちらかといえば当てはまる
・ どちらかといえば当てはまらない・ 当てはまらない

設問 11 親しい友人に対する返信速度は早い(緊急時を除く)

・ 当てはまる・ どちらかといえば当てはまる
・ どちらかといえば当てはまらない・ 当てはまらない

設問 12 知り合い程度の人に対する返信速度は早い(緊急時を除く)

・ A に近い・ どちらかといえば A に近い・ どちらかといえば B に近い・ B に近い

セクション 3「性格を測るための質問」

設問 13 外向的である(A) 内向的である(B)

・ A に近い・ どちらかといえば A に近い・ どちらかといえば B に近い・ B に近い

設問 14 交友関係は広い方である(A) 交友関係はあまり広くない方である(B)

・ A に近い・ どちらかといえば A に近い・ どちらかといえば B に近い・ B に近い

(参考文献・引用文献)

中原久志, 大津春輝, 市原靖士, 2023. 大学生のスマートフォン依存と利用状況との関連性の探索的把握. 日本教育工学会論文誌 47, 145-148.

総務省情報通信政策研究所, 2022. 令和 3 年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書, https://www.soumu.go.jp/main_content/000831289.pdf